

令和４年度 第１回 教育課程編成委員会議事録

- 開催日時：令和４年３月１４日（月）１４時００分～
- 開催会場：ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校 新校舎トールス１Ｆ
- 委員名簿：

	名 前	所 属	任 期	種別	
ファッション	岡田 雅文	NOUVEL des HIOC オーナー	令和３年３月～令和５年３月（２年）	③	
	園部 泰敏	三敬(株) 代表取締役社長	令和２年８月～令和４年８月（２年）	③	
	栗田亜矢子	スノッコデザイン オーナー	令和３年８月～令和５年８月（２年）	③	
情報	高橋 利行	岐阜協立大学 経済学部 教授	令和３年３月～令和５年３月（２年）	②	
	佐竹 輝美	株式会社デリカサイト 執行役員 情報本部長	令和３年３月～令和５年３月（２年）	③	
	南方 祐紀	株式会社グラスプアットジェアー 代表取締役	令和３年３月～令和５年３月（２年）	③	

※委員の種別

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しない。）②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

学校側参加者：校長 平野 宏司 副校長 岡本 春信 職員 久保田百合子 西村 佳子

- 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

ファッション科

現在、アパレル業界では人口減少や消費者の低価格志向により市場規模が横ばいで推移する中、ファッション性が高く、低価格な商品を展開するSPA（製造小売業）が成長している。現状は、オーバーストア（出店過剰）とオーバーサプライ（供給過剰）によって企業収益が悪化し、メーカーの商品企画・開発力が低下している。また、従来のメーカーによる企画・生産、小売店による仕入・販売体制が衰退し、実店舗とネット通販を組み合わせた複数の販売チャンネルの活用が増加している。コロナ禍が２年目となり、まだ先行きの見えない状況が続いている。このような業界の現状を踏まえ、多様な消費者ニーズに応え、商品の高付加価値化を図るため、デザイン、素材、加工技術などの「ものづくり力」とブランド創造力、資金調達、経営能力などの「ビジネス能力」を備えたアパレル専門家の育成を目的とした授業科目の開設、授業内容・方法の工夫・教育課程の編成を行う。また、岐阜のアパレル産業は、日本でも有数の商業分業体制を実現し、ファッション情報の集積基地を目指している。これに関わるアパレル産業の役職員やサプライチェーンの専門家の助言を得て教育課程を編成する。実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、アパレル産業振興の方向性や新しく身につけるべき知識やスキルを教育課程に反映し改善させていく。

情報デザイン科

現在、IT（情報技術）人材の不足が大きな課題となっている。理由は、情報セキュリティに対するニーズの増加、ビッグデータ、IoT等の新しい技術やサービスの登場によるIoT利活用の高度化・多様化が進展することが挙げられる。情報セキュリティ人材は、現在の不足数が約20万人、先端IT人材は、4.8万人の不足といわれている。以上のことから、IT人材の育成を目的とし、教育課程編成委員会と連携して、実践的かつ高度な職業教育を通して社会的ニーズに応えられる、自立した職業人育成を目指す教育課程を編成する。岐阜県のIT関連企業の集積や優れた情報基盤であるソフトピアジャパンエリアの情報産業の役職員や情報産業界の各種エンジニア、プロジェクトマネージャー等の専門家の助言を得て教育課程を編成する。情報産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、教育課程に

反映し改善させていく。

5 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、企業関係者、ファッション・IT 業界役員及び学校法人平野学園職員からなり、委員の意見に基づいて、より実践的な職業教育の教育課程編成を審議するものと位置付ける。また、2 月（3 月）に 1 回、8 月に 1 回、教育課程編成委員会を開催し審議を行う。

【次年度の教育課程編成】

（1）前年度の課題の抽出と改善策の検討

教育課程編成委員会構成員の学校法人平野学園職員により、生徒及び科目担当教員の意見聞き取りと質問調査を実施し課題を抽出する。その結果を教育課程編成委員会に示し、教育課程の改善策を協議する。そのうえで次年度の教育課程の編成について改善を行う。

（2）基本方針の策定

教育課程編成委員会構成員の企業関係者及びファッション・IT 業界役員より、業界の動向や新たに必要となるスキル等についての意見を聞き取る。そのうえで教育課程編成委員会にて協議し、次年度の教育課程編成の基本方針を決定する。

（3）教育課程案の策定

教育課程編成委員会構成員の学校法人平野学園職員により、協議した改善案を教育課程の編成に反映させ、各科目の内容を決定し、次年度の教育課程案を作成させる。

（4）教育課程の決定

教育課程編成委員会により、作成した教育課程案について協議し、次年度の教育課程を決定する。

【前期実施を踏まえての後期の教育課程改善】

（1）基本方針の改善

教育課程編成委員会構成員の学校法人平野学園職員により、生徒及び科目担当教員の意見聞き取りと質問調査を実施し課題を抽出する。その結果を教育課程編成委員会に示し、教育課程の改善策を協議する。そのうえで後期実施の教育課程の編成について改善を行う。

（2）基本方針の決定

教育課程編成委員会により、助言や改善策に基づいて協議し、来年度実施の教育課程編成の基本方針を決定する。

6 議事（司会 岡本）

（1）校長挨拶（平野校長）

（2）参加者紹介（岡本）

（3）学校より説明

ア．職業実践専門課程および教育課程編成委員会の説明（岡本）

○「職業実践専門課程」とは・・・専門学校のうち、企業等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する。

認定のポイント

① **「教育課程編成委員会」を設置** ②企業等と連携して授業を実施 ③企業等と連携して教員研修を実施

④ 「学校関係者評価」を実施 ⑤ HP でカリキュラム他の情報提供

教育課程編成委員会は、職業実践専門課程認定校として、本校の実践的な職業教育・専門教育の質的向上を図ることを目的とする。

○令和 2 年 3 月 2 5 日 職業実践専門課程の認定を受ける。

○今年度、職業実践専門課程生に対する奨学金があり、1 名いただけた。

○3月3日、初めての卒業生には「職業実践専門課程」の文言をいれた称号授与書をわたした。

イ 今年度の成果・課題と来年度のカリキュラム変更についての説明（スライド）

成果

○ファッション科 基本アイテム（スカート・パンツ・シャツ等）の製作、ファッションショーの実施、自国の服装製作（自国文化の尊重）理論系科目の理解（検定）NDK コンテスト最優秀賞、OFF デザイン画最優秀賞、その他検定多数合格（日本人）

○情報デザイン科 基本的なビジネスソフト及びプログラム（アルゴリズム）の理解、プレゼンテーション練習に力をいれた。

校内の検定（データ加工技術検定、オンラインショップ検定）創設

○留学生は日本語検定に力をいれた。 N1 1名 N2 2名 合格 N3以上の保有率48%

○日本人就職100% 留学生は苦戦、留学生当校で2名、アシスタントとして採用予定

課題

○コンテストなどが中止となっているので、技術を検定化して目標を作る。留学生には、奨学金給付を行う。（例えば日本語検定N2取得、皆勤等）○日本人と留学生の技術差が大きい。（特にファッション科）留学生に手がかかるぶん、日本人にももっと指導が必要であるので来年度別授業を増やす。○学習外の留学生支援（交通事故があった、コロナで学費が滞る、学生同士の小さなトラブル、コロナに次々と感染した、アルバイトでオーバーワーク（1人ビザ更新されず）、夜中のアルバイトによる疲労で出席不足、出席条件をきびしくした（8割で進級可の規定を1月以降9割とした）○コロナの影響で、今年度も学園祭・大垣ファッションフェスティバルができなかった。（専門課程のみでオープンデイ実施、卒業式にはビデオ上映）○コロナ感染のためズームで遠隔授業を行った。来年度もありえるので準備が必要。○少しでも卒業後の働き口を開拓するため、特定技能の科目を強化する。今年度数人合格し、就職する。

今回の教育課程改善点のポイント

ファッション科

①科目の精選 「デザイン学」2単位において、当校は最先端のロボット「ペッパー」について、ファッション科では服装デザイン、情報デザイン科ではロボットプログラミングを行ってきたが、ICTの進展は現在のところ、ロボットのような実態としてのハード以上に、活用度の高いソフトで顕著である。

従い、デザインで培った知見は、「デザイン画」「ディスプレイ学」の中で生かすこととし、総合計26→24単位とする。ただし、時数の確保が必要なため、夏期休業、冬期休業を減じて調整する。また日本人はファッション系の検定学習をさらに強化するため、選択必修科目として2単位を大切にしたい。

情報デザイン科

①情報デザイン科「専攻科」の設置

社会の高度情報化が進み、従前の2年間の教育カリキュラムでの限界が生じている。専修学校入学前の高等学校教育課程では、高度情報化社会で必要とされるスキルのひとつであるプログラミングについては、一般的に単位取得している高校生が少ない。従い、当校入学生にはプログラミングを基本から教える必要があるが、プログラミングを本格的に取り組む意思のあるものには、最新のスキルを、さらに1年間集中的に取り組む必要があると考える。

②科目の精選 昨年度「ITリテラシー」「ビジネスマナー」として比較的留学生にもわかりやすい科目を1単位ずつ行っていたが、それぞれ「ビジネス業務」の中で最新のIT事情と従来からのビジネスマナーやスキルを取り扱うことで関連性を意識して学べることから、それぞれの科目を廃止し、総合計26→24単位とする。ただし、ファッション科同様、休業期間を減じて、授業時数は確保する。情報系科目については検定対策が必要なので、日本人用の検定対策を別途選択必修科目として行う。

ウ. 今年度と来年度の情報デザイン科カリキュラム及び教育活動の説明

①前回の教育課程編成委員会での主な提言と改善点

○企業の環境がどんどん変化していて、いまや紙ベースの仕事がWEBの環境になりつつある。クラウドですべて文書管理が行われている。工場もロボット・AIが主流となっている。求められる人材は、形にとらわれずに考えることができる人である。チーム力行動力も SNSを使うようになってきているので、それをうまく活用できるようにしてほしい。

→クラウドを教えはじめた。グーグルフォームなどの活用できる人材を育てる。

○自分が学生時代の体験でも外部へ発信できる力が重要といえる。学生時代の体験が大いに役立つ。YouTubeを

作れる力が必要。アジアからの学生が多い、ということを強みにしてほしい。

→発表させると、ファッション科も情報デザイン科の学生も自国について誇りをもち、りっぱに発表できることがわかった。継続したい。

○クリエイターとしては、SNS、ツイッターが必須。それをきっかけにして声をかけてもらえることが多く、営業の代わりとなる。BASE でオンラインショップをやっている、グッズが売れる。ポッドキャストでチャンネルをもつこともよい。長く続ける情報発信をしてみてもいい。

→ライン、インスタ、Facebook と学生がいろいろな手段をもって情報発信をしているところを教員ものぞいている。良い部分をほめてやり、伸ばしていきたい。

○新店舗を作ったがコロナ感染のために苦戦することもある。SNS,HP も大切であるが、それは手段で、来店者は接客を通じて、楽しんでショッピングをしているので、それを大切にしたい。バイヤーとしてはオンラインが増えているが、実際の商品と違和感があることもある。お店にきていただいて、いろいろ体験していただくことが本当はよい。服屋＝体験である。コロナの中、いかにお店の良さを伝えることができるかが、今の課題となっている。

→日本人だけでなく、留学生にもコミュニケーション力を養うように指導している。セミナーで経営者の方から直に呼びかけていただけるとありがたい。

○若者の支持を得るためにも、これからの企業は SDGs に対応していることが必要となってくる。学生がその姿勢を持つことで、企業も学生をみる目が変わってくる。企業としては global な視点がある学生だと評価してくれる。

→平野学園全体をとおして、SDGs をテーマとした。ディスプレイ学でさっそくとりいれた。

○教育課程編成委員会を経て、カリキュラムがこなれてきたようである。2 年間で到達できないことをどう解決していくのか、例えば専攻科の新設など、考えていくことも必要かもしれない。

→ご助言のとおりで、もっと勉強したい、という学生の要望が強かったので、4 年度から開設する。

(4) 委員意見・協議

○学生の成長ぶりがよく分かった。学生の技術を生かしてやりたい。雇用する側からすれば、それぞれの学生の強みを生かして PR することが大切である。入社して 3, 4 年の社員が挫折することがあるが、他の業務で活躍できるようにしている。2 年間で到達していない部分をどうカバーするかが課題である。会社にはいつからではフォローできないので、学校にいる間に、フォローすることが大切である。

○自分の学んだことを生かせる職業につけるとよい。ポートフォリオ作成、ということ聞いたが、就職のきっかけとなるので大変重要である。当社も 50 人のポートフォリオを見たが、魅力的なものは数人であった。聞いてみるとやはり学校でプロが監修している。しっかりしたポートフォリオを作ることができるような指導が大切である。

○VTR がよくできていた。ファッションでも最近は CG を使うことが必要となっている。即戦力として使えるレベルが作れるとよい。2 年ほど東京にいていなかったが、やはり対面のビジネスはとても大切である。リアルでないと契約まで行かない。ネットも大切だが、両者ともにしっかり学んでほしい。学生時代にコミュニケーション力をつけること。第一印象もしっかりしてほしい。例えば、マスクをしたままでも立ち姿が大切であったりする。

○ネットは動画重視の方向にいつている。インスタグラムのリールが躍進している。クリエイターから見ると、この 1 年はオンラインばかりとなり、対面のイベントが減った。大垣市で元気ハツラツ市が街中スクエアガーデンに生まれ変わるので、このような機会も利用して勉強してほしい。

7 校長まとめ、お礼